礫陵新聞

発行所
福岡県若松市小石
若松高等学校
新聞部
発行人　大村文男
編集人　西尾守正
印刷所　西日本新聞社

六・三制はあくまで實施
東大京大を中心に学術研究
天野文相　教育制度を言明

先日、来県された天野文相は『六三制はあくまで実施する』と立言局の所信をのべ、講和後における教育制度に大きな変革が予想されるとの噂をするどく否定され次のように語られた。

過去四年間にわたる教育の実績だけでは、たとえ幾多の悪条件に阻まれて難航をつづけているとはいえその功績を云々するのは尚早の感もないではない、しかし新教育の目標である『社会的集団にうまく調和していく発達した円満な幸福な個人となるための生徒の努力を伸してやる』という観点に立ち日々のあらゆる有効な教育的営為が個々の生徒の上によい態度、よい習慣を形成していくという積み上げられたものに対しての論議は当然たたかわされなければならない。生徒が健全で円満な発達を遂げさせ、素質をのばしていくのは単なる知識の獲得や集積された知識の保持だけでは達成されない

六三制は日本教育に一貫する教育機構である以上教育内容なり、方法技術の面に関しては今一段の考慮を払うべきで、わけても高校教育がギヤバジンのコートに身をつつんだ案山子に例えられ、その本質と真価にただならぬ批判が集中される時、改めて高校教育の目的を直視し、集歩的教育活動の推進に躊躇する事は許されない。

高校教育が民主的社会の有為な形成者として個人の資質を発達させるように努めればまず学習経験が民主的社会生活に指向されなければならず個性教育の適切な指導に打ち込んでいかねばならない。

この意味において個別指導の必要はもちろん、高校における生徒指導がゆるがせないものでホームルーム経営、生徒会活動、グラブ活動等適切な進職指導を有効に進められて行かねばならない。

以上のように言明され続いて広汎なる教科選択制の廃止、アチーブメントテスト式入試の是正、更に東大、京大中心の構想等をのべ学界はもちろんこれに関心をもつ多くの人々の耳目をあつめた。

なお高校で採用されている選択教科制度は大した効果もなく意義も持たない、むしろクラス制度の長所を活し強く推進していき更に大学教育が東大、京大等主要な国立大学中心の学術研究の組織をうち立てようとしている、すなわちこれらの大学の定員を増加し、地方大学で前期二年を修了したものを選択して入学を許可するという六・三・三・二・二の新しい教育制度の構想があるといって大いに注目された。

（旧教官岡崎先生提供）

PTA会長に清永氏
環境整備が目標　新会長談

本年度PTA定例総会は、四月七日本校講堂において行われたがその席上前PTA会長古長氏後任を選挙によって決定した。PTA会員各位は古長氏の続任を希望されたが古長氏は一昨年、昨年の二期をPTA会長として務められたので『会長は一年を一期とする二期以上を続けてはならない』という規約により止むを得ず改選することになった。選定方法は選挙でその結果、清永氏がその後任として決定した。なおその他のPTA役員もその際に決定した。

清永氏談　私は今度会長の席に着いたが本年度の計画をする前に昨年度の反省をしてみると

一、父兄全般が新教育に対して理解不充分
一、若高独自の単性を把握できてない
一、地理的に不便なのか学生一般がのんきすぎる

等充分反省する必要があり、私の本年度の目標としては

一、学校の環境の整備
一、PTA自体の教育

等色々問題があり、私全体の力を挙げて一生懸命頑張るつもりだ。

書籍及雑貨品は
林語堂へ
若松高校下

論説　伝統と校風

何やかやと世間からの批判の的となって来た男女共学も今年度になってやっと落着き、いよいよ発展段階をたどり始めまた今や若高が擡頭し実質ともに県下随一の学校になるかならぬかの一番大切な時期なのである。チャンスなのだ。ここにおいてわれわれは校風というものを考慮する必要があると思う。今もし第三者から若高の伝統は？校風は？と問われたら諸君は何と答えられるだろう。恐らく大部分の人は答に躊躇を感じるであろう。新憲法に高等学校では〝国家社会の有為なる形成者〟を育成することを目的とすると歌ってあるが、この自由を本体とする民主主義社会において成される高校教育は地方によって、例えば人が各々違った個性をもつように各地方の特色を活かした教育を、実行することによって学ぶものであって従って校風というものは独自に表われ発達していくものであるそしてそれが善き伝統となって残るのである。それが不明瞭なら、そこに活動性がないからだ。

人間は絶えず動いている。この〝動き〟が大きいか否かによってたいてい優劣が必然的に定まってくる。（但し〝動き〟の意味を徒うな無価値なそれと誤解しないように。）学生生活は一般社会と異なり正美感と清純さに満ちた時代であるべきでそこには功利性というものは生じないはずである。ところが人間はどうしても利己的に走り勝ちである。この多種多様な理性の動物が集まって一つの社会を形成しているのだから協力調和なんて不可能だというのは人間社会には秩序というものがある。一種のわくである。このわくのもとにそれぞれ生きんがための生存競争を行っているのである。もしもこのわくがなければ世の中はこんとんとして不安のうちに生涯を終らねばならない。それがあって始めて平穏無事に未来えの希望を抱いて勉強などできるのであり、近代社会では、欠くべからざるものとなっている。同様に学校内でも規則がある。ところが未だにして精神病者がいるとみえて、秩序を乱す、それによる影響は甚大でこれでは校風の刷新どころではない。人間は自然の子であるとともに環境の子である。環境によって左右される率の大きいことは歴史が証明している。環境がよければ自然と善き校風が造られそれが伝統となる。だからまず環境を是正せねばいつまでも発展はできないことになる。ところで美えの憧憬は幼児でももっている。ましてわれわれがきたないものを好むはずはない。ところが群集心理はそれを反対えと導く。群集心理に惑わされないようにするには大変な勇気がいる。勇気はこういう時に出すものだ。理想主義者は拚を吐いて理想論ばかり説き現実を軽視するが理想主義で現実主義を軽視するのは大抵現実主義を支配できない人々である。彼らの理想主義も動揺するだろう。そうなると理想主義も単なる感傷にすぎなくなる。何故ならそれは真の意味での健全な形態とともに生まれるかちである。われわれの学園を理想化するには一歩一歩確実に階段をのぼっていくべきだ。誇るべき伝統を築くのは一朝一夕で成されるものではない、だからといって知らぬ顔をしているのでは余りに虫がよすぎる。毎日毎日の学生生活がある校風をしらずしらずのうちにつくりそれが伝統となって下級生に感受させつぎつぎと拡がっていくのである。ここにおいてわれわれはもう一度考え直す必要がある。『一時的な得をするよりも正しい道を進む方が自分自身にとって幸福になりそこに自ら善き校風が生ずる』ということを。本校に健全な伝統を残さんがために賢明なる諸兄姉の再考をわずらわせたい。

（平野）

甚しい上下の差
第一回（模擬考査）（進適検査）行わる

今年度三学年第一回学力模擬考査は去る六月二日、四日の両日にわたって実施された。科目内容は国語、数学、英語の三科目にわたり三百点満点であったが、最高点は、三組の清永君が二二一点で第一位で他を断然引き放して目立った。以下はその考査成績である。

総点	人数
三〇〇―二五一	〇
二五〇―二〇一	一名
二〇〇―一五一	九名
一五〇―一〇一	二七名
一〇〇―五一	四八名
五〇―〇	七二名

続いて第一回進学適性検査模擬試験は同じく六日、七日三年進学者に一せいに、第一部百分、第二部六十分の二回にわたり行われた

総点百点で女子の中平さんが七九点の好成績で男子を破りこれも二位をぐっと引きはなしている。

総点	人数
一〇〇―九一	〇
九〇―八一	〇
八〇―七一	一名
七〇―六一	〇
六〇―五一	八名
五〇―四一	三三名
四〇―三一	六四名
三〇―二一	七二名
二〇―一一	二四名
一〇―〇	四名

なお両考査担当教官である吉開先生は成績表をみて次のような感想を語られた。

『今回の考査は第一回のものであったが成績は昨年に比べて同成績位のもので進歩は見られない。気がつく所は若松は離れている関係上、他校に比して非常におとり気迫がない。今後第二回は七月から大体月一回位の平均でやって行きたいが進適は十二月にあるようすで昨年より早くなっている。

互いに譲らぬ各代表
もめた予算会議

今年度本校々友会予算は例年の通り各部々長一人づつ、運動文化部から三十六人が出席し開かれたまづ家令会長のもとに各部希望予算案が提出されたが総額一五一万一千二〇〇円をはるかに上まわるため決定せず早くも波乱をみせたが昨年より十九万円プラスとなった予算を運動部6、文化部4の比率で分けられ総会は一応散会したが運動部はその日、午後十時まで会議を続行新しく加わった柔道部、ソフトボール部合せて十二部が八四万七千八百五〇円を分配決定し、例年の混乱状態に落ち入る事なく無事終了したかに見えたが翌三十一日、文化部より訂正案が出され更に昨年までの校友会費百円に二十円増加の案が出て二十日の案は流れ、二十円増加案が決定し学校側へ通告したが、五月七日総会が再度開かれ学校側より瓜生教官の二十円値上げ反対理由が示された。それによれば、今年は五十円程、柔道場設置予算と北校便所修理費のため、値上げされるのに二十円増加は負担の関係で無理であるとの理由による。このため又混乱となり結局総務部九七、二五〇円運動部八二万二千九百五〇円、文化部五九万一千八〇〇円と正式決定となり文化部二十四部は午後九時三十分まで会議を行った運動部も続いて開かれ、決定されたが総務部より学校全体の運動向上のために、総務部予算の増加が必要となりこの案が通過して今までの決定案を流して新案で会議が進められた。

昭和26年度生徒会予算決定表

1	総務部	122・300	00
2	文芸部	24・800	00
3	地理部	16・800	00
4	歴史部	8・800	00
5	一般社会班	13・000	00
6	化学班	24・800	00
7	物理班	22・800	00
8	無線班	25・200	00
9	無生物班	23・400	00
10	生活科学部	34・800	00
11	英語部	2 8・400	00
12	珠算部	24・800	00
13	タイプ班	7・700	00
14	経済調査班	3・400	00
15	図書部	150・000	00
16	演劇部	2 52・800	00
17	映画部	27・200	00
18	写真部	11・400	00
19	音楽部	12 14・800	00
20	美術部	9・800	00
21	新聞部	18・800	00
22	園芸部	76・800	00
23	弁論部	17・400	00
24	合計	12・800	00
	野球部	591・800	00
1	庭球部	132・300	00
2	籠球部	49・000	00
3	排球部	88・000	00
4	水泳部	89・200	00
5	卓球部	71・900	00
6	ラグビー部	48・500	00
7	陸上部	89・200	00
8	柔道部	88・600	00
9	ソフトボール部	42・600	00
10	山岳部	29・300	00
11	相撲部	22 9・300	00
12	合計	54・400	00
	総計	79 7・900	00
		1389・700	00

九大が依然トップ
三年生進学調査

現三年生の上級学校志願者の状況を調べて見ると、男子の志願者は全体の七四%に対し女子の志願者が昨年よりぐつと増加していることが注目される。官立大学に志望するものは約六十七%、私立大学を志望するものは二十%で残りの十三%は未定で特に女子の志願者に多い。官立では好条件を有する九大が全体の四十九、三%で依然としてトップを占め約半数である。東大、京大など中央の大学を受ける者が昨年度と同じ傾向をとってふえ年々めざましい進展ぶりを見せている。私立では早大、明大、西南大が多く経済的、地理的に自分の希望する学校に行けない人が多少あるのが現在の有様である。

官立		私立	
九大	大六七%	早稲田	三・五%
九工大	六・六%	明治	三・二%
京大	三・五%	西南大	三・五%
東大	三・〇%	広島大	三・五%
山口大	三・〇%	福商	二・五%

以上が各学校の志望率である。学校が昨年までの合格者の状態からみて受験者に適当だと思われる学校へと推選している。しかし自分の希望する学校へ入るためには教科書だけに満足せず、基礎的に研究し又夏休みなど機会のあるかぎり合格生に接してその体験をきいたりするなどして来年の予定を立て、計画的にやってほしい。また英語、数学などは表面的にながれず、突つこんだ勉強をするべきである。環境が環境だから特に視野を大きくして、周囲を見てほしいと関係の先生は感想を述べている

職員住宅新設さる

新学期から工事が進められていた職員住宅が五月下旬完成した。これは最近の住宅難に困っている先生を救おうとPTAが計画し、総工費五十三万円を投じて体育館の後の旧二教室を改造して住宅にしたものである。入っておられるのは孫田、藤井、山村の三先生であるが今年は経費やその他の関係で打切り来年度また増加する予定である。なお柔道部施設や職員の住宅に大いに活躍しているPTAは生徒及び職員に明るい希望をもたせている。

文芸講座開かる
講師　玉井正雄氏

新学期を迎えて新たな計画のもとに文芸部主催でこのほど『文芸講座』が三回にわたり行われ、若高文学愛好者の渇をいやした。講師は郷土若松市の公安委員として且つ文化人として有名な玉井政雄氏にお願いし、第一回は六月十三日午後三時より南校講堂で開かれた。題は『文芸について』で堂々三時間半にわたり、文化のあり方、芸術にはどんなものがあるかなど特に芸術はヒューマニズムの精神を基調すべきであるということと文化と生活は密接に結びつくべきで主義でなく、あり方だと強調された。続いて第二回は六月十九日午後四時より題『日本文学と世界文学』主に日本の江戸時代から明治までの文学史とフランスのリアリズムについてで、文学は主情性と論理性を兼ね備えるべきだと話された。第三回は六月廿一日午後三時半より南校第一裁縫室で、『創作について』が行われ多大の成果を上げて終った。

消息欄

△鶴島教官、去る五月十三日、御結婚。人生の新しいスタートを切られた。

△岡崎教官、家庭の御都合で、六月一日をもって本校を御退任後福岡県山門高等学校に自宅から御通勤。

△谷川教官　本校事務長として務めて来られたが、去る六月一日をもって、事務長兼出納員として戸畑市北築高校に御栄転された。

△宍戸教官　谷川教官の後任として元満鉄華北交通株式会社から着任。八幡市折尾町に現住。

△飯塚教官　本校元事務官篠原勲氏の後任として新任。戸畑市桃園町より御通勤される。なお宍戸飯塚両教官とも六月十六日付をもつて着任された。

前進

▲われわれ学生の本分は勉学にありと耳が痛くなるまで聞き、学校で迷講義に耳を傾け（？）ているがそれは何故だろう▲いわずとしれた考査に満点を取り、上級学校へ、社会へと進み、一個の人間を作らんがためだ▲その早道を得んために、うの目たかの目でノートにかじりついている、その結果を発表し得る唯一の機会は試験である▲われわれはその日まで懸命だ、が然し今年度実力考査の用紙には了然とする。張切つて向つた答案用紙が鉛筆を走らす毎に『パリツ』『パリツ』消ゴムを使用する毎に『パリツ』とくる。気分がだれるといつても当然だろう。われわれの悩みの種となりつつある▲翌日は2Bで立ち向つたが結果は同然。これには憤慨せざるを得ない。毎月月謝の中に百円納入しているはづだ▲学校のおえら方も暗い電燈の下で見る答案がこれでは嫌になるのは当然と思う。われわれも不愉快至極だ▲今後のこのような用紙には勘弁してもらいたい。然し依然、豆考査でも同じ用紙だとしたらどうだろう。直接学校側に文句が出ても致し方がない▲学校も苦しいだろうが試験用紙だけはという声を聞いて欲しい▲今度は生徒側に一言▲最近またもや校内の暴力事件がひんぴんと聞かされる▲真相をたしかめると上級生が下級生えの制裁だそうだ▲未だにこの雰囲気があるとは驚いた▲上級生のいい分は横着だ。気分が頽れているとお決りものだ。だからといつて暴力には考えさせられる▲〝少年期〟を見て刺戟が強すぎたらしい▲口で説いてはどうだろう。学校側からも注意されているが、いいかげんにごこらでストップしては▲然し一年生にも一考を要するところだろう。（M・N）

若高の現状を語る

若松高校も共学三年をここにえたが、その間、突き当つたあらゆる困難を克服し若松の最高学府といわれているがしかし果して名実共にそうなつているだろうかは疑問である。

若高はこの三年間如何に発展し、生徒自身はどのように成長したか世間、学校ではそれをどのように見ているかまた、生徒自身はどう自覚しているかわれわれは是非とも知りたいものである。

本紙は二面にこの問題を取り上げ校長を始め爪生、久保両総務教官が学校側として、父兄及びその関係者の方々から玉井政雄氏、臼杵同窓会長、教育委員有田一寿氏を特にお願いし、生徒側では三年家令委員長、二年石松両君にその意見を述べていただきここにその大要をまとめてみた。

必要な学業面の刺戟

男女共学は成功

校長　森本鉄之助

地理的な環境のせいだろうが、生徒は一般に、学業方面の刺激が乏しくそのために競争心が足らず成績もあまりよくない。今後対校考査などを試みたいと思つている生徒会の活動はあまり自発的に行われていない、むしろ受身的である。品行方面では悪質な素行者はいないが、子供らしい乱暴な行為が多い。これなどは芸能方面の学科で情操な精神を養つて直して行きたい。生徒は皆、男女共学にはよくなれて男女の仲もよく共学のことで問題を起すようなこともない。運動は各部ともそろつてよくやつているが、女子の方が多少圧迫されているようだ。

教師の方では今まで永い間両校に分かれていたので、急に統合されて不便な点が多かつたが、現在では、全日制はもとより、夜間制全職員が一丸となつて和気あいあいとしている。生徒の学識を向上させるには自分達がまず学ばなければ、といつて、どの先生も一生懸命に勉強しておられる。

またP・T・A、市民の援助は大変によく行われているので非常に感謝しております。

遵法精神を旺盛に

公安委員　玉井政雄

犯罪の上から眺めると昨年の一年間における若松の生徒の在学中の犯罪は、小学校二五六件、中学校一四三件、高等学校一〇九件(男子七三件、女子三六件)で、窃盗、強喝、傷害等の犯罪を出している。一校しかない高校において一〇九件とは、はなはだ感心すべきことではない。中学生、小学生の模範を示すような態度をとつてほしい。

学問では時々、本校に行つて感することは皆非常に文学的、文芸的に熱心でよろこばしい。また、運動方面の活動も活発で陸上、野球の成績のよいのはうれしいことである。

積極性が不足

教官　爪生二成

若松は他の所と違つて高等学校が一校しかないせいか、競争心もおこらず、お山の大将のような気持になつているように見えるとこの生徒の積極性に欠けているということを追つているにすぎない、一例をとつて見ると、下関商業学校においては頭髪をのばしている者、パーマをかけているものは一人もいない、福岡高等学校においても段階はすでに他校が経験したことが第一にいえると思う、若松に高校が一校しかないという環境のせいもあるかもしれないが時の動きを知らない、即ち他校からおくれている現在の若高が進んでいるもあるので、この封建的な若松の土地がらに染まらず、何事にもこだわらないで、広く一般を見わたし、大らかな気持で郷土を愛し同時に批判して貴方達がもつと高いものを求め明るい自由な町にして文化方面を高めていただきたいものです。

君達の遵法精神を旺盛にして、よいアプレゲールになることをのぞみます。

精神的教育も深く

先生生徒間の美しい融和

同窓会会長　臼杵啓介

現在の生徒は共学が原因かも知れないが少し軟化して来たようである。そのためか少しは裏話があるが大体において板について来ているようである。私が最も学生に望みたい事は行動にも服装の点についてもどこまでも学生らしくしてもらいたい事である。これは特殊的な事ではあるが旅行のために学生服でない幾種もの変つた洋服の注文が洋服屋にあつたと聞いているが、来年はこの点はあらためてもらいたいと思う。その他生徒に対しての批評は現在表面化した物はないと思う。これは少しいにくいことだが学校のある然愛媛等は同窓会の中で批評が良くないものもあつた。われわれの時代はつめとみ主義で軍国主義の色彩が濃く学校側の命令にしたがう教育であつたが、現在の学生はそれがなくなつたので多いにはきつてもらいたい。先生も普的の教育者でなく生徒との関係が美しく融和して来た事は大変良いと思う学校側には生徒の精神面について深い教育をしてもらい、特に性的方面についてはいいにくい所もあるだろうがそのために失敗が起つたというようにならないように十分に教育してもらいたい。この事は特に願うところである。歴史も浅い事であるし、最近運動や若高の先生等のアメリカ留学生についてだんだん名の上りつつある若高をなお一層発展させる事を学生諸君に望むところである。

名実共に若松の最高学府たれ

教育委員　有田一寿

まず若高の生徒諸君は他校に比べて共学は順調に進んでいると思う。それは一つには校長先生以下諸先生方で県の定めた男女共学の教育方針を忠実に施行されているからだろう。他高では男女を別々のクラスに分けているらしいが、若高は良く本当の共学をわれわれの予期以上にやつてくれる。

前者と同じである、模擬考査にしても競手と嘉穂は勉強の対抗試合をやつているというような状態である、何か時代の動きというこれらをみただけでも考えさせられる日本全体に自分達の競争相手が多いということを認識していただきすべてのことにあたつていただきたい、また生徒が学校を第三者的に見ているような気がする、学校で一番大切な構成分子は生徒であるということを自覚して積極的に自発的に根本にめざめてもらえばすべてのことがらが理解されるでしょう。

欠げている物質愛

教官　久保正刀

物質愛の精神が、非常に欠けていると思う。器物の破損が多いということは非常に悲しむべきことである。水道、ガラス、ドアの破損など……小さいことではあるが注意を要することではなかろうか他校に行つてみてもこの学校ほど荒れている所は少い自ら荒らして『どうせがただではないか』と平気な顔をしているがもとを正せば修理費はすべて生徒が出しているのだ。皆がもつと物質愛の精神を持つていただきたいと思う。

教師と生徒は打解せよ

委員長　家令和昭

共学実施後はや三年経過した。今までの経過を振り返つて見ると男女共に中性化した傾向がある。とれは共学の大きな欠点だと思う。また、男女性が互いに摩擦しあつてそれが校風にまで影響を及ぼすのも一考を要する事だ。しかしいずれにせよ今更共学について批評したりするのは卑怯だと思つている。現在すでにこうなつた以上、仕方がないのでベストのコンディションまであげるべくお互いが努力すべきである。本校の上級生と下級生とが親密さにおいて欠けているのは残念である。われわれ三年のように併置中学最低学年を経て来た者と一・二年のように新制中学最高学年を経て来た者とが調和しにくいのは当然の事ではあろうがそこを皆で改善して行こうではないか。教授に対しても同じ事がいえる。当校程教師と生徒の間に精神的に、しんみりした空気を持たない学校はおそらくないだろう。もつと打解けた空気を作つて欲しい。特に注意を要する事は高等学校は決して大学の予備校ではないという事だ。〝人間性の完成〟これを目的として勉強して行きたい。要するに先決問題は、一致団結するということではないだろうか。

全校生徒が互いに理解し合つて、なごやかなふん囲気のもとに、楽しく学校生活を送りたい。

欲しい個性的な面

二年　石松一隆

(一)現在の若高は新制度になつて三年目であるのに全体的に校風というおうか気風といおうかそういうところが莫としているようだ、近隣の学校がどうしたから若高も……というようなことは止めてそろそろ校風も創造されてもよい時期ではなかろうか、それにはまず個性を尊重しまた個性的に伸びることが第一だと思う、個性ある個人の上にはじめて校風は生れるものだからである、もつと個性的な面が欲しいものだ

(二)九州の田舎の高校生であるわれわれは常に視野を拡げて見る必要があると思う中央では高校一年から既に大学への準備をしているらしいし大部分の学生が他に塾や予備校に入学しているそうである その他文化的な接触も少ないわれわれはそれだけのハンデイキャップを取り返すために事実上寸暇を惜む努力が必要だ、生徒も先生もまだまだ緊張せねばならないのではなかろうか、全般の盛り上る学問への情熱が欲しいものである

(三)また一年二年生はあまりにも子供つぽいと思う、男女共にそれぞれの美点を生かしてすんすん成長してほしいものだ、いわゆる大人びた人間になれといつているのではない、純真さ素直さはいつまでも必要だと思う、思索する人間理知的な人間に成長して欲しいうことに興味を持つ。空をあおいで白砂をまいたように星の無数に散在する宇宙と見比らべるとこの地球の大きさもむしろあはれむべき小さな存在でしかない。まして人間の小さき。一個の自己の如きは――とそんなことを思つていると自分の身辺に起つた不愉快なことでも憂うつなことでも日常茶飯事のように非常に些細なものに見えてそんなことに拘わつている自分がとても愚かしく見えて来る。つまり気持が寛大になるわけである。然し悲しいことにはその時はいくらそのような広い気持でいても翌日学校に行き種々な雑事にまきこまれていると何時の間にか又狭小な人間になつている自分を発見して激しい自己嫌悪に襲われることがしばしばある。何時までもあのような気持が続けばよいと思うのだがどうしても出来ない。

『天には星が光り地上では人が明かりをつける然し星の光は落着いた冷やかな無限の明かりであり人のつける明かりは泡のように生じては消えて行く刹那の明かりである』とは『青銅の基督』の中のある青年の言葉だが今どうして眼下に点滅する灯を見ているとそういう感じがしないでもない。実際宇宙に比較された人間程小さくあわれな存在が他にあるだろうか。今宵も輝く澄んだ空に数多くの星が永遠の光をたたえて輝いている。そして光の下では泡沫のように果敢ない人間が喜怒哀楽さまざまの人生劇を演じているのである。

制服決定は是か否か

賛成論が七割で圧倒的

校内輿論調査

経済的安定を見せ、各地の高校に制服決定問題が取り上げられて来た現在、本校でも新学期を迎えて、生徒間で色々の問題が上げられている。その一つとして大きくクローズ・アップされている制服問題の〝制服決定は是か非か〟について、六月十日、全校一斉に世論調査を行つた。全体としては賛成が圧倒的に多く七〇%を占め残り三〇%が不賛成である

またその理由としては賛成では『校紀が統一される』『学生としての誇りを持つ』が圧倒的で不賛成では『経済的な負担が大きい』『形式にこだわらないのが学生の本分』が他を抜いていた。なおその内訳は次の通りである。

賛成者理由統計は

(1) 校紀が統一される　(三十七%)
(2) 学生としての誇りを持つ　(二十%)
(3) 一般に経済的に安官して来た　(八%)
(4) 他校も漸次決定して来た　(四%)
(5) その他　(二%)

不賛成者理由統計は

(1) 経済的な負担が大きい　(十三%)
(2) 形式にこだわらないのが学生の本分　(八%)
(3) まだその必要がない　(三%)
(4) 個人の自由意志にまかせる　(四%)
(5) その他　(二%)

その他の理由として賛成では『清潔な感じがする』とか『貧富の差がない』『はでな服を着る人が少なくなる』等が多くあつた、面白いのでは『あまり高くなければよい』というのがあつた、不賛成では『三年生はもういらない』『今すぐは駄目』また面白いのに『なんとなく』等が多かつた。

隨筆　此の頃想うこと

三年K・N

ついこの間まで中央に輝いていたオリオンが一寸見ない間にすつかり西へ傾いてしまつた。私は元来天文にはあまり詳しくないのであるがそれでも夕食の後かたづけの済んだころ等よく一人でぶらりと外に出ることがある。まだ暮れ残つた西空が瞬く間にその色を濃くして行きやがて果てしもない空の海に降るような星が点滅する。夜は何時も美しい。セレナーデが一番深刻で美しいのと一緒であろう。だから画家は夜景を書き詩人は夜をうたう。遠く神話、伝説の中に星をなぞらえて作つたものも又多い。私は星の持つそういうロマンテイツクな美にも一種の憧憬を感じる。が然しどちらかというとそれよりももつと現実的なものを考えさせられる――といつたオリオンの話は何時聞いても美しい。

風紀月評

投稿歓迎　匿名も結構、なお原稿は返しません

我に机を与えよ

それはもう今学期が始まつて以来毎日大音響と大じんあいを立てながらくり返されている事だ、も賢明なる諸君はお判りの事と思う机の大移動だ、この問題を学校はいつになつたら解決してくれるのだろうか、それによつて起る惨事はおびただしいものがある、弁当荷物の紛失はひんぴんとあり掃除の時間には元え机をもとすのに一苦労、おまけに教室も廊下もほこりの旋風と化する、勉強だ勉強だとなつてくれることだ。こういう意味から文化方面について大いに活躍してほしい。

美しい一年の教室

私はある校友会の部員である関係上、放課後になると、よく南北両校舎間を往復する。その度に北校舎教室、特に一年生の教室が美しいのには驚かされている。と共におそらくそのような美しい教室を協力して作り上げているのであろう一年生諸君に心から感謝しているのである。整然と並べられている机、柱にかかげられた美しい花、白い紙を張つた壁にはカレンダーを始め、えはがき、写真、授業の時間表などが調和よくかざられている。どこを見ても教室を美しくしようとする努力の結晶がありありと表はれていて思はず感嘆の声をもらす程である。勿論、心なき人々がいうように、そういつた事は勉学に何等関係はないかも知れない。然し要はそのような美しい環境を作り上げようとする心がけの尊いのだと思う。二年生諸君よ、君達の美しい心が、やがては全校生徒の心を動かし我が若高をより良く美しく、楽しい楽園に築き上げるのだ。『なあに、あれも始めのうちだけさ』さういつて嘲笑されぬよう最後まで君達の尊い心を守り抜いてくれ給え。

(三年O)

とさけばれるようになつたのは大変嬉しい事ではあるが、これではちよつと勉強するという気分になれない。夏になつて窓ガラスを入れるよりも先つ机を購入する方が先決問題だと思う、ガラスは今からは、入れて無い方が涼しくていねむりを防止するためにもよいと思うが。(二年カンズメ生)

伊藤君（五千千五百）に若高新記録

全福岡高校陸上大会

県高体連主催による全福岡高校陸上大会が去る六月十七日平和台において県下の若人六百余人の参加の下に盛大に開催された。本校からは三年の伊藤君が五千・千五百、四百に、二年の上甲君が三段跳び、高跳び、女子が四百米リレーの各種目に出場したが予選で伊藤君の四百と女子の四百米リレーが惜しくも失格した。五千米は伊藤君よくトップのグループで力走強豪筑紫の久保田君と接戦を続けたがラストのペースが乗く二着タイム十六分四十八秒二（若高新記録）また千五百は終始トップを争いつつも田川高校の神田君、糸島の鯉川君のスプリントには致し方なく惜しくも三着、タイム四分二十秒四先日の記録を破ること六秒八（若高新記録）であつた。

日野顧問談　先年と比らべて技量その他の点について一段の進歩が見られるのはうれしい。トラックレースになれることとスピードの練習に力を注げば、来年の九州大会には優勝できるだろう二年の上甲君は踏切りとスピードをもつと研究すれば伊藤君の後について相当な期待がかけられるだろう。それからこの大会にも感じられることだが女子の運動の不振については充分に考えねばならない問題だと思う

写真部スタジオ作る

本校写真部は南校舎に新しい控室を持ち、活躍が期待されていたが去る六月二日、控室横に約三坪のスタジオを作り未完成ではあるが、逐次整理され、木村部長の下に十数名が各手腕を振つてその活躍はすでに開始され、校内において成功をみており、今後若高写真部発展の大きな土台として期待されている

桜も散り、ぽかぽかと初夏の愁をただよわせた風が今日も運動場の上を通つている、その中にカンカンと快よい音がして白球が青空高く舞い上り本校野球部の猛練習が行われている、九州高校予選に次々と、強豪を打破して好成績をあげているがその原動力ともなつたわれ等のエース阿部和人投手を尋ねてみた。彼は古前小学校を去つて若中に入学、そのころより素質ある野球マンとして注目されていたが本校野球部に入部し浮沈の部をよく助けた、改めて高校となるや、若冠一年で早くも主戦投手となり美しい

今年のホープを訪ねて

甲子園を目指して力投

阿部和人投手

フォームから投げ出す速球とドロップを武器として北九州でも名を連らねたが、その後の默々とした猛練習にぐんぐん腕をのばし、三年になるや名実共に野球部のホープとして小柄な体をマウンドに乗せて力投しているその彼は『自分としては今年が最後の一年ではあるし、あくまで甲子園を目指して力一ぱい投げます』といいともたのもしく今年の抱負を語つてくれた。

名実共にホープ

伊藤誠司選手

出ていずれもトップまたは中軸走者として力走し本校の名をなさしめる原動力ともなつた。その他第二回北九州駅伝十マイルロートレース等も走り長身な体をよく利用し落着いた力走ぶりには一段と光るものがある伊藤君は今年の抱負を『今度優勝した千五百米を練習するつもりですが、今後は第一の目標である国体出場をねらい、また先輩の残した好成績に汚名をつけないよう、若高の名を上げたい』と語つた。

上陸

卒業生の去つた後本校陸競部では三年の伊藤君はいたつて純真で真面目な努力家で勉強の方でも優秀な成績を残しているが、陸競においても長距離の第一人者とされている。

彼は松江中学から中学三年の時に本校に転校し、早速、新制中学の北九州駅伝に出場し、その注目には注目されたが、その走法いがなく高校に入るや第一回北州駅伝に三宅松尾両君と共に出場、続々と糸島の駅伝宮崎大会大阪の全国大会に

延長十回、遂に敗る

五市代表高校野球大会出場

北九州五市代表野球大会がさる六月二十四日小倉尋楽園で行われた。出場校は若戸代表若松高、八幡代表東筑高、小倉代表小倉中央高、門司代表門司東高、以上四チームによつて午前十時から門司対東筑高によつて熱戦のひぶたがきられたが本校は小倉中央と組み延長十回の末2A−1で敗れた。

| | | |

SKシナリオ募集に入選

鶴島教官『波』を出品

鶴島教官

さる三月二十七日、小倉SKのラジオドラマのシナリオ募集に本校の鶴島教官は療養中の身にもかかわらず『波』を出品し、見事佳作に入選された。

先生のシナリオ・テーマは純な思想をもつ十七、八歳位の学生がある程度、人生にあきらめを持つ二十八歳位の女性にほのかな思慕をよせ、色々な事件がくり展げられるものである。

この作品の入選を耳にして先生はつぎのように語られた。

『波』という題目は最後のセリフにある『人生は波のようなものかもしれないわ、一つの波が新しい波の型を新しい波が打消してまた新しい波の型を刻んで行くように砂のカンバスの上に人間の悲しみや、歓びや、寂しさや怒りを永遠に描き続けるのかも知れないわ、未完成の絵をね』というところからとったもので動機は病気の時、ある程度死に対する恐れを痛感しその時何等かの欲望において三年間の学校教員生活に何か一つ残して置きたいと思ったことと自分の才能の限界をためしてみたいと考えていたところを今度のシナリオ募集に出して幸運にも入選したよ発表の日は怖いながらもラジオの前でまつていたよ。入選と聞いた時、何でも一度はためして、ぶつかつて見なければ本当のことは分らないのだと思つた。

なお次回作品には本校の花田先生をモデルに『坊ちやん』を書く予定で、今回の入選をみて、この作品が大いに期待される。(T・I)

文化部の活躍盛ん

製鉄洞海湾を見学　地理・生物　化学・社会部

昨年、校友会文化部の活躍が不活発で非難をあびて来たが、今年は新部長のもと早くもその汚名を流すべく活発な動きがみられる、その最初として地理、生物両班の平尾台見学からはじまり、そのレポートが印刷されている、また去る六月六日、地理、化学、生物の三班は計画通り八幡製鉄を見学し電子顕微鏡による種々の鉄鋼の表面組織を観察し、次いで工場内から有名な熔鉱炉を見学し大いに得る所があつた。続いて六月十六日地理、社会、生物の三班は教官数名と共に洞海湾一周を試み、種々の観察から見て多大の成果を挙げ得る事ができた。

このように、文化部の活躍は校外研究の機会を摑み大いに躍進をとげ、将来を期待させるものがある。

映画

脈打つヒューマニズム
―わが谷は緑なりき―

南部英国ウエールスの一炭鉱町に平和な日々を送つて居た一家族の美しかつた緑の谷間も資本主義社会への推移の前に数々の悲劇が生み出される、組合運動の必要を叫んでアメリカへ渡海する次男三男不幸な結婚に泣く姉、父と長男との落盤による死、かくして悲劇は終るのである、その中に力強く脈打つ高いヒューマニズムと柔らかな詩情この作品はジョン・フォードの三大力作の一作であるといわれているだけに文句の無い良作である

★

炭鉱といえばほこりっぽい所を想像するが、画面は白黒によつて美事な美しさを見せている。それに炭鉱特有の活動的な人の動きと機械の回転とはグイグイと迫つて来る迫力とどっしりとした重量感を与えている、それにつぎつぎに起る事件は諦きることなく観衆を引っぱって行くジョン・フォードの才能に感心するより他はない、始めのタイトルの出る時の男性合唱も何となく健康で力強い印象を与える。同じく『果なき船路』『荒野の決闘』にも男性合唱が入つたと記憶しているがジョン・フォードは良く男性合唱を映画音楽の中にそう入している。

この映画を一貫して流れているもの、それはキリスト教的愛の精神と人間性の美しさである。教師が村を立ち去る時の演説に『諸君は決して映画の中のみの問題では無いわれわれ学校生活、日常生活にても強く響くことである、総ての問題をひたすら神の愛によつて生き抜く父親こまやかな愛情の母親互いに助け合う兄弟それらは感涙包んで神の前に行列を作るのか』という言葉があつたがそれは何故偽善と臆病とを黒きベールで流れているヒューマニズムがかくさせたのであろう。(K・I生)

★

学生と文化

今様坊ちゃんのH先生が赴任して行つたのは、松林に囲まれた片田舎の中学校だつた。そのころ既に日本は、蛸の糞のようにのぼせ上つた頭で、大東亜共栄圏というどえらい観念をふり廻して、世界に戦争をふっかけていた。柄でもないことをおっぱじめたばかりに国民はその生活のあらゆる面に、不倫な束縛や圧迫を豪つていた。片田舎の中学校といえども、この不愉快な重圧を免れるわけにはいかなかつた。

学校の先生というものが、聖職にたずさわる神様であつたのは、すでに昔の夢になつていた。今までの神様が神格を失つてしまつた恰好は、鶏を裸にした程あさましくあわれに見えた。若い世代を導く者の権威も誇りも失つて、ただ時の権威者のあやしげな権力の下に小さくなつてふるえていた。もちろん個人の趣味を尊重するなどということは、思いもおよばぬことだつた。

そのころ、ちようど坊ちやん先生が赴任して二ケ月程したある日坊ちやん先生は教員室の事務机の前に坐つて、何か調べものをしていた。この中学校の三席教員で校長の腰巾着のG先生がわん曲した短い無恰好なガニ股で床に散文的な足音を立てながら近ずいてきて突然坊ちやん先生の耳元にぼそぼそと、如何にも卑屈なささやき声を立てた。坊ちゃん先生は顔も上げずにそのささやき声の意味を理解しようとした。

『先生すみませんが、これが』と

蓬髪事件

本校教官　蒲公英生

しさを感じ得意を感じていた。つまりその頭髪は坊ちゃん先生の趣味だつたのである。坊ちゃんには耳元でのその卑屈な声と言葉とがたまらなく不愉快になつた。のみならず、鼻先に自信なげにぴよとりと立てられた親指が、ひね生姿のかけらのようにあさましく見えた。坊ちゃん先生はそれに軽蔑的な一瞥を投げたきりで、うんともすんともいわなかつた。ただ、強く音を一つたてにふったきりだつた。ささやき声の主は一応目的を達したものと思つたらしく、機嫌でもとるように、曖昧な言葉を小声でささやいてゆつくり消えて行つた。

坊ちゃん先生は瞬間机の前を睨んでいたが、むらむらと激越なある感情が全身をふるわせた。眉間に稲妻のようにけわしいものが走つた。大きな音を立てながら、椅子を机の下に蹴込んで立上つた坊ちゃん先生は、真直に校長室に突進した。性格の弱い小柄の校長が大きい机について、髭の短い筆で手紙を書いていた。坊ちゃん先生はお辞儀もしないでつかつかと校長の前まで進んで、大きな机を隔てて校長をにらみつけながら、『校長、あなたはぼくの頭の毛を切るようにいえとG先生に命ぜられましたか！』と激しい語気でまず一発放つた。校長は、瞬間適当な応答の言葉を見出し兼ねた。予期していなかつたことと見る。坊ちゃん先生はその弱味につけ込んだ。

『あなたは何故自身でそれを直接ぼくにいわれないんですか！自分の部下に物をいうのに、何故他人の口を通していわなければならんのですか！それ程あなたは権威をもたれないんですか！それ程あなたは自信をもたれないんですか』校長の顔には、明らかにあわてた表情が表われていた。適当に胡麻化すより外仕方がなかつた。『いや切れといつたわけではないが、ただその……』大分苦しい弁解である。坊ちゃん先生は、そんな弁解は無用だといわぬばかりに畳みかけた。

『切れといわるれば切らぬとはいいません。然し切らねばならぬ正当な理由がなければ、ぼくは断じて切りません。教壇に立つ者としてぼくのこの頭の毛が生徒の情操をかき乱し、その審美感覚に悪影響をおよぼすものとすれば、ぼくは潔くこの毛を切りましよう。然し生徒達は、ぼくのこの毛が非常にぼくらしくてよく似合うといつております。彼らはぼくの頭の毛に、調和的美を感じているものと思われます。従つて、ぼくの頭の毛が生徒達の感覚に影響をおよぼしているとは受取れません。むしろG先生のあのガニ股の方が、よつぽど不調和で不様で生徒達の審美感覚に悪影響をおよぼしていると思います。ぜひぼくの頭の毛を切れといわれるならば、G先生があのガニ股を切つたら、ぼくも潔くこの毛を切りましよう。』

それでなくとも、既に困り切つていた校長が、そんなべらぼうなことをいつていいと許すはずがない。一生懸命わけのわからぬ弁解とも懇めともつかぬことをいつて一応その場を取り繕つたことはもちろんである。

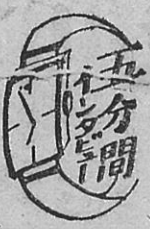
結局坊ちゃん先生の頭髪には何の異変も起らなかつた。中庭の雑草のように繁茂するに任せた坊ちゃん先生の頭の毛は、その後も毎日自然の美をただよわせながら教壇に現われた。

☆　☆

自らの力で向上を

P・T・A副会長　久我ケイ子女史

朝から、しめつぽく降つていた小雨も上つてすがすがしい晴間が見えてきたある日の午後、本校PTA副会長として活躍されている久我さんを深町の私邸にお訪ねした。広々とした庭先の縁側に腰を掛けられて和やかに語られる様子は子供達に親味を尽す母親の気持そのままが現われて一語一語が身にしみる。まずは早速質問の矢を放つた。『共学になつて男女の中性化等の問題についてどうお考えですか』『それで私はよく思うのですが男生徒はすべからく蛮カラ風であつてよいですね。それは粗野とはまた違つたいわゆる気品のある男らしい態度ですよ。その点私は高下駄で町を歩いたりするのは格好さえきちんとしていれば別に悪いとは思いません。かえつてズボンの折目を気にしたり派手なスポーツをやつて女生徒の目を引こうなんてのは与太者とちつとも変りませんよ。外観よりも心の中がしつかりしているのが本当の男子です。またその方が女生徒にも好かれるのじやないですか』といつて意味ありげに記者の顔をのぞいてにつこり笑いながら続けられる『女生徒はもつと柔らかさ、やさしさがあつてもよいと思います。それといつて昔の日本女性のようになりませんがね』『亡くなつた御主人が若いころ東京日々新聞の一流記者として活躍されていただけあつて質問の応答も中々核心を衝く。『PTAは発足以来四年になりますがまあ軌道に乗り始めたようですね』『父兄の方にはもつと学校の実情に接してもらいたいですよ。常日ごろは無関心で卒業間際などになつて何故もつと講習をさせなかつたか等と不服をいつて来る父兄もありますけどあんなのは本当にいやですね』『父兄の無関心組にちよつぴりいや味さらに『若高を中途で止めて他のさというものを味あうべきです。伝統や校風は自分達が築くものですからね。勉強が他校よりずつと遅れるというのなら自分でも努力するし先生にも今までよりずつと時間数を増してもらつて講習でもとしどしてもらつたらいいんじやないでしようか。後輩にも若高の門をくぐることが誇りに思えるようになればしめたものですがね』とこう結ばれた久我さんは『だけど若高も相当よくなつたようですよ』とふくみ笑いをもらされた。



編集後記

愈よ一学期も終了し、夏休みも間近にせまりました

本紙も今年度第二号を発刊するに至り、内容もようやく充実し発刊以来第十四号を数えるに至りました

△　△　△

十四号二面には我々生徒の最も関心ある現在の若高状態を学校当局、社会人、生徒と三方からみた意見を載せました。若高発展のために参考になれば幸に思います

△　△　△

三面には十三号で除きましたスポーツ・シーズンを迎えて、今後諸君の活躍を期待していますから大いに張切つていただきたい

△　△　△

一学期はこの号で終り、次号は二学期に発刊の予定で、今から豊富な企画で意気込んでいます

文化部の横綱……
若き情熱家を望む
新聞部員募集！！
希望者は北校編集室へ

材木の御用は
信用とサービスの店
小林材木店へ
浜四番町　TEL一三〇三

英語辞典は西海堂
簡約英和辞典　価八五〇円
英和活用大辞典　価二〇〇円
ポケット英和辞典　価三五〇円
リットル英和大辞典　価一八〇円
西海堂書店　本町四丁目

安価良品
信用第一！！
清潔な家庭用品、生活必需品である食器は是非
アベ金物店
本町四丁目
電話　一一〇七番

各種優良運動具は
買いよい
ニューアポロへ
中川通り旭座街
TEL一八六四